

「第2回 つながろうCO・OPアクション交流会」参加報告

理事 小石 淑子

東日本大震災から2年が経過しましたが、「復旧の進み具合」や「復興に向けた課題」など被災地の状況は格差が発生しています。

それぞれの被災地で必要とされている支援のあり方、被災者を長期に渡って支援する為の課題など、被災地生協の職員・組合員理事から「現在の状況」や「生協の取り組み」を伺い、復興への思いを共有化し、支援のあり方を考えるため、2013年3月14日(木)コラッセふくしまで、全国から41の生協 150人が集いました。

● コープふくしま 野中専務理事より、

「原発事故から生協組合員の暮らしをとりもどしたい」と題して講演が行われ、コープふくしまが取り組んだ、家庭の食事からの放射能摂取量調査や仮設住宅の訪問活動などの報告がありました。

住民目線で1つずつ進めたこと・・・ 放射能とはナニモノカ？ 食事調査の結果の理解
「怖がる権利」と「怖がらない権利」の共有

● コープふくしま・みやぎ生協・いわて生協

「被災地の今を知り、これからの支援を考える」分科会

福島	宮城	岩手
支援生協による情報発信	復興の遅れによる地域格差 ⇒個人間の格差	住まいと仕事の再建
放射線被害の複雑性・多様性 ⇒全体から学ぶ	産業復興	被災地地域の格差
応急の継続	母子と子どもへのケア	

2013年度の復興支援方針
・ 1. 生活再建活動を続ける
・ 2. 買って支える
・ 3. 福島を支える
・ 4. 被災地の今を知り伝える
・ 5. 社会的制度を充実させる
・ 6. 次の災害へ備える

「買い支え」「忘れない為の発信」「支援者への支援」など、支援に必要なこと、継続する為の視点でグループ発表を行い、議論を深めました。

～ 被災地に 一番 最初に入った生協が 一番 最後まで寄りそう ～

ユーコープでも「助け合いの精神に基づき」復興支援活動に取り組んでいますが、いまだ被災地のくらしは厳しい状況が続いており、30万人を超える方が仮設住宅で過ごされています。引き続き、全国の生協の仲間と、「東日本大震災を忘れない取り組み」「福島の支援活動」を継続的に進めていくことが必要です。単協どうしの取り組みを集約し、全国規模での持続可能な生協の支援の形を考える必要を確認しました。

被災地に広がる格差の解消や産業の復興、心のケアなど、社会的枠組みや制度の強化、特に「被災者生活再建支援法」などの充実を求める必要を強く感じました。

2013年度も日本生協連とともに、①「生活再建活動を続ける」②「買って支える」③「福島を支える」④「被災地の今を知り伝える」⑤「社会的制度を充実させる」⑥「次の災害に備える」の6点を柱に、心と力を合わせ支援活動を進めます。